

公共施設に関する手紙

市長への手紙

Q

久しぶりに竹島水族館へ行きました。昔のまま懐かしかったです。珍しい魚がいたり、アシカショーもあり、楽しいところなのに、古くてさびれた感じがします。もつときれいにすれば、たくさんの方が来てもらえるのではないのでしょうか。

市長からの返事

A

水族館には、世界中の珍しい海水魚、淡水魚、熱帯魚など、450種4千匹の魚がいます。施設は、老朽化しており、入館料以上に維持管理費がかかっているのが現状です。

水族館をよくしようという思いは、市民みんな同じだと思います。しかしながら、水族館の建設には、膨大な費用がかかります。

また、民間や第3セクターでの経営で、高い入場料がかかる水族館が多い中で、市が直営している水族館は、全国的にそれほど多くありません。古くても、予算が少なくても、職員手作りの水族館として、通常展示以外に「水族館の裏側見学会」や夜間の魚の生態が観察できる「夜の水族館」な

ど、いろいろな催しを行い、がんばっています。ぜひ、一人でも多くの市民に訪れていただきたいと思っています。



教育に関する手紙

市長への手紙

Q

最近の子どもたちは、手軽なファーストフードやコンビニの弁当などを、栄養のかたよったものを食べ、精神的にも悪影響があるので、心配かと思えます。子どもたちと保護者に食教育を行ったらいかがでしょうか。

市長からの返事

A

現在、蒲郡市には学校栄養職員が4名いて、市内の全小中学校に1校あたり数回程度の巡回指導を行っています。また、各学校では、家庭

科の時間や総合的な学習の時間、学校保健委員会、全校集会などを利用し、健康に関する学習の一つとして「朝食の大切さ」「生活習慣病の予防」「夏休みの献立づくり」などを取り上げ、食教育を実践しています。しかし、食について考えていく場合、どうしても家庭、とりわけ母親の理解が不可欠です。そのために、多くの学校では機会あるごとに保護者にも声をかけて、右記の学習へ参加していただいたり、学校便りや保健便りなどを発行したりして、食の大切さを伝えていきます。このように各学校で取り組んでいますが、食に関することは学校教育の中だけでは解決できないことが多くあります。機会あるごとに各学校で子どもたちや保護者への食に関する教育が実践されるよう、市内小中学校を通じて働きかけていきたいと考えています。そして、地域の方々のご理解とご協力もお願いしたいと思っています。各学校と地域が一体となり、今何が必要なのか、何をすべきかなければならないか、共に考えていきたいと思えます。子どもたちの健やかな成長のために、共に努力していきましょう。

市政に関する手紙

市長への手紙

Q

年に一度か二度、市民集会を開くとか、地区別交流会を開いたらどうでしょうか。

市長からの返事

A

市民集会や地区別交流会開催のご提案ですが、市民の皆さんとお話する機会を持つことは、私も大賛成です。

私は、市長就任以来、市民の皆さんの声を市政に取り入れ、皆さんと一緒にまちづくりをすることをも motto としています。

そのために一昨年より、市長対話「どつくばらん」を開始し、300人以上の市民の方と対話をしてきました。その中で、福祉、教育、環境、公共施設など、さまざまなお話をし、実行できるものはすぐに実行してきました。そして、地区からの要望があれば、各地区へ出かけて対話も行っています。

また、対話に対する私の考えは、「どこでする」「どんな形でする」というより、「どんな話ができるか」が重要だと思っています。必要があれば、どこへでも出かけて、市民の皆さんとお話したいと考えています。